

# 谷川岳山行記録



オキの耳で

指導標とトマの耳

平標への縦走路

	谷川岳 (冬山山行: 天神尾根)	期 日	平成21年1月8日 (木)・終日快晴
山人	笠原正雄・加藤イツ子・池野ヒロコ	特 記	快晴と同行者に恵まれ満足の山行

地名	時刻	記 事
中之島 P 発	午前 6:10	ここで二人と待ち合わせて、水上 IC まで高速利用。
ロープウェイ	8:50 乗車	屋内駐車場。平日無料。駅舎内でゆっくり支度をやる。往復乗車券 2,000 円。平日のせいで、駅舎内は閑散としており、数人の若者を見かける程度だった。
歩き出し	9:10	山頂駅を出て、ゲレンデの右端の脇に登山入口の立看板。カップズボン着用。重登山靴での壺足スタートも直ぐさまぬかる。ゲレンデに戻りワカンをつける。スキー滑降トレース上のほうが歩きやすいので、ゲレンデに入って登る。
田尻尾根を乗越す	9:40	全く良く晴れて西黒と天神尾根の全てが見える。左に進路を取り、疎林の斜面を進む。トレースは全く無い。徐々に登りとなって天神尾根に取り付く。
急降下を終える	10:25	7~8mの壁。手前でワカンをぬぎ、ダブルストックをピッケルに持ち替えて、後向きになってそれを刺して、キックを利かせて一人ずつ降りる。そのまま壺足で進む。途中、大きな岩が行く手を遮り、右トラバース斜面に入る。但し深雪となり、膝で振りながらのラッセルとなる。次いで左手を雪斜面に突っ込み足場を固めながら進み尾根に復帰する。後続者二人が追付いて来て先行して行く。トレースが出来て楽になった。一人は小屋番の馬場さんとのことだ。
熊穴沢避難小屋	10:55	屋根が少し出ていた。追越したもう一人の男が立っていた。彼はこの後、沼田山岳会と書かれたデポ旗を刺しながら進んで行った。下山時回収をしていなかったの、会山行の準備だろうか。少し立ち休み、再度ワカンを付けて先へ進む。
天狗の腰掛	11:30	途中でデポ旗男を追越す。ここで一度先行の小屋番に追付いたが、先行して行った。単調な登りが続く。風が冷たく感じ、登路でフリースを着る。
肩ノ小屋	12:10	小屋番がなにやら納戸で作業をしていた。デポ旗男もやって来て本日の入山者 5 人が全員揃う。小屋番と一緒に平標への縦走路を背景に記念写真を撮って貰う。ワカンをぬぎ、小屋にザックを置いて、ピッケル、アイゼンで山頂に向かう。二人は下山して行った。
トマの耳	12:40	クラストした斜面を登り到着。万太郎谷の底まで見える。浅間山の噴煙が大きい。ピークを下って先へ進む。岩稜が僅か露出している。一ヶ所雪のクラック有り。
オキの耳	13:00	越後三山を見る。木柱の雪を払って山頂の刻字を読む。絶景である。風も無く穏やかで、写真撮影に忙しい。
ようやくランチ	13:40	小屋に戻り、靴を脱いで一部避難小屋として開放された広間に入室し、テーブルで湯を沸かしランチ。食堂等有料宿泊室及び素泊まり用寝室部分はコンパネ板で釘打ち閉鎖されていた。あまりゆっくり出来ないのやや急いで食事する。
下山歩行開始	14:40	ワカン、ダブルストックで下る。東の空に薄く月が見える。低い雪温で快適な下り。東の対岸の雪が陽の当たり具合でマシュマロ様に見える。
壁の登り	15:40	上山時ピッケル壺足で降りた所は階段状になっていて、ワカンのまま乗越える。
ロープウェイ山頂駅	16:10	先行下山の二人のトレースは我々の上山トレースより田尻尾根との合地に寄っていた。それに従って進み、ゲレンデに出て降りる。ゲレンデの客は既に下ったのだろう、殆ど姿は見当たらなかった。19:10 帰宅。

まさか一月に谷川岳へ行くとは、頭の片隅にも無かった。所が、Kは冬この山を経験しているIから、その素晴らしさを頻りに聞かされていたと言う。1月に行きたいとのメールが大晦日にあった。俺は、サンデー毎日。従ってKの休日とお天気がドンピシャでなければ行くことは出来ないと答えた。2日前に長岡のT女史から同日別の山の誘いが来たが、回答を留保していた。ギリギリまで天気予報を注目し、そして全くのドンピシャがやって来た。決行を決めたのは前日の夕刻である。Tに合流できない旨の連絡をしたのは、彼女達が二王子岳に向かっている当日の午前5時であった。

思いがけず全てが満点条件となって素晴らしい山行となった。たぶんこれ以上の気象条件は望めないであろうと思われる。誘ってくれたKと言い出しっぱのIに感謝する。